

CERELA-CONICET(アルゼンチン拠点)との共同研究・国際交流

アルゼンチン拠点の国立乳酸菌研究所(CERELA-CONICET)より、Julio Villena博士(東北大学外国人研究者招聘フェローシップ制度による来日)、Maria Guadalupe Vizoso Pinto博士、大学院生のJacinto Alfredo SacurさんとMaría Fernanda Raya Tonettiさん(拠点形成事業の共同研究による来日)が来日され、2022年9月より3ヶ月間(Vizoso Pinto博士は1ヶ月間)、動物食品機能学分野および動物機能形態学分野において共同研究ならびに国際学術交流を行いました。

滞在期間中、Villena博士とVizoso Pinto博士は、これまでの共同研究成果についてまとめ、原著論文を投稿および公表すると共に、新たな国際共同研究の立案と具体的な計画について北澤教授と打合せを行い、今後の展開に向けた大変有意義な時間を過ごすことができました。また、11月25日に行われたCFAI Special Seminarでは乳酸菌の粘膜免疫機能性に関わる興味深い講演をしていただきました(Newsletter No.75)。JacintoさんとFernandaさんは、研究拠点形成事業による共同研究を推進しました。具体的には、乳酸菌の粘膜免疫機能性を基盤としたワクチン開発に関する基礎的研究や新たなインビトロ評価系の構築ができ、これまでの研究成果と合わせて原著論文の作成および投稿に貢献することができました。また、学生とは学術的・文化的な国際交流を行うことができ、2人の熱心に実験される姿に大いに刺激を受けると共に互いの文化を知り、尊重し合える大変貴重な機会になりました。10年以上の繋がりがあるアルゼンチン拠点ですが、コロナ禍を経た3年ぶりの来日ということもあり、同じ空間で国際的なコミュニケーションが取れる喜びを感じ、今後の共同研究の発展も見込まれ大変有意義な時間となりました。ご援助頂きました日本学術振興会並びに拠点形成事業に改めて感謝申し上げます。来年2月から福山が2ヶ月ほどCERELA-CONICETに海外留学し、共同研究をさらに推進する予定です。

(文責:福山)



Jacintoさん



Fernandaさん



実験風景



塩釜魚市場にて



塩釜神社にて



松島にて